

令和7年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	72	学 校 名	浜松南高等学校	校 長 名	鈴木 学
------	----	-------	---------	-------	------

評価	基 準	評価	基 準
A	十分目標を達成することができた (達成値 $\geq$ 目標値+5 ポイント)	C	あまり目標を達成することができなかった (-5 ポイント $>$ 達成値 $\geq$ -10 ポイント)
B	おおむね目標を達成することができた (+5 ポイント $>$ 達成値 $\geq$ -5 ポイント)	D	ほとんど目標を達成することができなかった (達成値 $<$ -10 ポイント)

*基準は目安であり、数値の限りではない。

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア 高い志を育む	a 自己理解を深めさせる	自分の興味・関心や適性を踏まえて進路を考えていると答える生徒 80%以上	自分の興味・関心や適性を踏まえて進路を考えていると答える生徒 87.5%	A	・LHR、探究の時間を中心に、生徒が将来を考える機会を提供できた。 ・昨年度を上回る結果となり、一定の成果が認められる。進路指導を中心とした継続的な指導が成果につながったと考えられる。 ・昨年度より達成状況が上がったが、2・3年生は昨年度1・2年生での結果よりやや下がっている。 ・生徒の進路決定の参考になるような書籍を意識して選書した。3年生の3学期の利用が多いが、今後は1、2年生からの利用を促したい。
	b 志を育む情報と機会とを提供する	自分の将来に対するはっきりとした夢や希望を持っていると答える生徒が卒業時に、入学時に対して30%up	自分の将来に対するはっきりとした夢や希望を持っていると答える生徒が卒業時に、入学時に対して30%up - % (参考：R7 70.0%)	C	・進路指導やキャリア教育の効果は一定程度認められるが、継続的・個別的支援の充実が課題である。 ・目標に対して達成状況がはっきりしない項目である。現3年生の1年次が67.6%で本年度76.8%となっており、そもそも30%upがほぼ不可能であることを考えると、Cという評価を付けることが妥当かどうか疑問である。 ・理数科は、年間を通し様々な行事を校内・校外において実施し、学年が上がるにつれ、目標が明確になっている。1年から目的をもって行事に取り組めるよう3年間を見通した指導が必要である。

様式第3号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
	c きめ細かな進路指導を行う	進路指導が充実していると答える生徒 80%以上 文理選択、進学について生徒自身がプレゼンテーションを行う	進路指導が充実していると答える生徒 85.7% 文理選択、進学について生徒自身がプレゼンテーションを行うことができた	A	・全学年で肯定的回答率が高く、2・3年生も昨年度から上昇している。2年後半から3年中盤にかけての充実をさらにこころがけたい。時間と手間をかけることと効率を上げることのバランスが難しい。 ・本校の手厚い進路指導により、生徒保護者の信頼に繋がっていると感じる。しかしながら、教員の負担も増加していることを真摯に受け止めなければならない。 ・大学に行くためではなく将来を見据えた進路指導をしていくべきだと感じる。教員サイドで選択肢の幅を狭くさせないようにしたい。
イ 学力を伸ばす	a 学習意欲、思考力・判断力・表現力、知識・技能等を育む授業を充実する	授業が充実しており、学習意欲が高まったと答える生徒 80%以上	授業が充実しており、学習意欲が高まったと答える生徒 81.9%	B	・先生方の授業への取り組みが、生徒にも伝わっている。今後も続けていきたい。 ・自己評価アンケートでは水準を満たしているが、個々に知識の定着と運用が求められる。 ・下2つの項目の評価と比べると、きちんと習うことはできているが、授業で意欲を引き出す部分が不足ということか。
		授業で、習得した知識・技能をもとに、より深く学ぶことができたと答える生徒 80%以上 探究活動が充実していたと答える生徒 70%以上	授業で、習得した知識・技能をもとに、より深く学ぶことができたと答える生徒 84.2% 探究活動が充実していたと答える生徒 (未実施)	B	・一定数の生徒が深い学びを実感している。 ・教員の割合は94.0%で生徒の意識と乖離があるが、目標は満たしている。今後も興味関心を高める授業を追求したい。 ・理数科は、理数探究において、校内発表会を公開したり、外部の発表会・コンテスト等に参加する等の活動を通して、より生徒が主体的に活動し、探究活動を充実することができた。
		授業がわかりやすく、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いたと答える生徒 85%以上	授業がわかりやすく、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いたと答える生徒 83.1%	B	・自己評価アンケートは教員92.0%、生徒83.1%と目標を満たしており、継続していきたい。 ・2・3年生で評価が低い傾向にあるのは、授業内容が難しくなったことに対応していない生徒が一定数いると考えられる。

様式第3号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
	b 主体的な学習習慣を身に付けさせる	家庭学習時間 平日2時間以上 休日3時間以上 主体的に学習する習慣があると答える生徒 70%以上	家庭学習時間 平日2時間以上 休日3時間以上 54.0% 主体的に学習する習慣があると答える生徒 61.2%	C	・全体平均は一昨年水準に戻ったが、3年生の学習時間の増加によるもので、1. 2年生は30%台である。アンケートの各項目からは、授業頼みで家庭学習時間も少ないが、9割近くが、家庭で自分が必要とする学習を行い、6割以上が主体的に学習する習慣があると思っていることになり、メタ認知力が不足していると思われる。 ・先生方が懸命に小テストや補習に取り組んでいることに反比例していないか懸念せざるを得ない。 ・適切な学習習慣が身に付くように、指導の工夫をしていきたい。 ・課題を多く出して勉強を強制的にさせるのではなく、目的意識をしっかりと持たせて勉強に向かわせたい。
		授業以外学習機会が充実していると答える生徒 80%以上 補習の検証と7時間目削減に向け検討を行った	授業以外の学習機会が充実していると答える生徒 78.9% 補習の検証と7時間目削減に向け検討を行った	B	・目標の80%にはわずかに届かなかったが、概ね高い評価であった。補習などにより学習機会の確保も一定程度図られていた。 ・目標には届いていないが充実していると考ええる生徒は多い。補習の削減をするにあたってどのような機会が提供できるのか、スタディサブリのような自主的学習に生かせるもの、自主的に学習し質問ができる時間と場所の積極的な提供が必要ではないか。 ・校内における7時間目削減案を完成させた。補習については検討を継続する。
		学習活動で励ましあう友人がいると答える生徒 90%以上	学習活動で励ましあう友人がいると答える生徒 89.8%	B	・身近な関係では学びに向かう学習集団が形成できている。 ・弱音を言えたり、一緒に頑張ることができるという精神的な部分だけでなく、互いに教えあう、学びあう関係が広まるとよい。 ・2年生が1年次よりも肯定的回答が減ったのは気になる。 ・生徒間の良好な関係は概ね構築されている。今後は協働学習の充実により、さらなる学習環境の改善を図る必要がある。

様式第3号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
		心に残る本に出合ったと答える生徒 50%以上	心に残る本に出合ったと答える生徒 <u>63.0%</u>	A	・読書ノートやビブリオバトル、朝読書で読んだ本のミニ感想文などを実施した結果、目標を上回る結果となった。来年度以降も継続していきたい。 ・読書ではない取り組みでもいいと感じる。
ウ 人 間 力 を 高 め る	a 自己管理能力を高める	生活習慣が確立していると答える生徒 80%以上	生活習慣が確立していると答える生徒 <u>86.2%</u>	A	・生徒の自己評価は高い数値を示しているが、睡眠時間が遅く課題意識を持つ生徒もいる。保健委員による生活習慣調査の実施を検討中である。 ・登校時間の8時20分に、ギリギリで飛び込んで来る生徒が多いので、時間に余裕をもって登校できるように昇降口での声掛けを継続して行っていきたい。 ・ほとんどの生徒が基本的な生活習慣が確立している一方で、できない生徒が目立ってしまうこと、それに対する学校の組織的な対応（生徒指導）などを考えていく必要がある。 ・「毎日朝食を摂り、規則正しい生活を送っている」と答える生徒が多いが、欠席、遅刻、早退、授業態度などを見ると、よろしくない生活を（きちんと）繰り返す習慣が確立している」生徒が多いのではないかと考える。 ・欠席が多いことが気になる。学校が楽しいと思える環境にしたい。
		交通法規を守っていると答える生徒 90%以上 重大な交通事故ゼロ 避難先や避難経路を把握していると答える生徒 80%以上	交通法規を守っていると答える生徒 <u>90.5%</u> 重大な交通事故 <u>0件</u> 避難先や避難経路を把握していると答える生徒 <u>77.1%</u>	B	・重大事故は、0件であったが交通ルールを守るという規範意識は低く、大きな事故に繋がりがねないため、集会や街頭指導での、注意・喚起を継続して行っていきたい。 ・避難経路は新校舎建設に伴い、年度途中に変更があり、防災委員を通じて連絡したが、周知徹底を促したい。
		校則やマナーを守っていると答える生徒 90%以上 提出期限を守る、役割を果たしていると答える生徒 90%以上	校則やマナーを守っていると答える生徒 <u>92.4%</u> 提出期限を守る、役割を果たしていると答える生徒 <u>85.8%</u>	B	・校則を守っているという生徒の意識と、教員側の意識に大きな隔たりがあると感じるので、なぜルールやマナーを守らなければならないのかということを伝えていきたい。 ・校則やマナーについて、生徒の自己評価は高いが、教員の

様式第3号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
					評価は低いというギャップを埋めていく必要がある。 ・ゴミの量は例年通りだったので、ゴミの持ち帰りや分別マナーは概ね良好である。一部の生徒のトイレ利用のマナーが良くない実態があるので、マナーアップの方策を検討したい。 ・教員がお膳立てしてしまうことが多く、生徒自身が達成感を感じられる活動や場面が少ないと思われる。 ・職員は校則・マナーがそこまで守れていないと感じているが、生徒は守れていると答える生徒が多い。ギャップがあると感じるので実態を調査したい。
	b 主体性・創造性・協働性を育てる	学校行事により人間力が高められたと答える生徒 80%以上 生徒が行事や学校運営に対して提言を行った	学校行事により人間力が高められたと答える生徒 90.1% 生徒が行事や学校運営に対して提言を行った	A	・文化祭や体育大会では、生徒が主体となって企画や運営をスムーズに行うことができた。小さな成功体験が自信につながるので、来年度も生徒が主体的に動くことができる行事の運営を行っていききたい。 ・本校の学校行事は、担当の先生方の尽力により生徒の成長に繋がる活動になっている。 ・目標値を十分に達成しており、生徒の主体的な参画が促進された点は成果である。一方で、意見を教育活動に継続的に反映させる仕組みづくりが今後の課題である。
		部活動により人間力が高められたと答える生徒 80%以上 部活動と学習活動を両立させている答える生徒 70%以上	部活動により人間力が高められたと答える生徒 87.2% 部活動と学習活動を両立させている答える生徒 77.0%	A	・多くの部活で、一生懸命行っており、人間力の育成に寄与できていると感じている。文武両道は、本校の強みであると思うので継続してサポートしていきたい。 ・以前に比べると、部活動を休むことに対して抵抗がない部員が増えている。
工 安 全 ・ 安 心 な	a 施設・設備を整備する	学習に関わる施設・設備が整えられていると答える生徒 70%以上 体育・部活動等に関わる施設・設備が整えられていると答える生徒	学習に関わる施設・設備が整えられていると答える生徒 81.6% 体育・部活動等に関わる施設・設備が整えられていると答える生徒	B	・体育館の熱中症対策やグラウンドの強風による土埃対策が課題である。 ・新校舎移転を控えた校舎のため、老朽化した施設設備で様々な不具合が発生したが、生徒の安全を最優先に考えて迅速に対応し、安心して学べ

様式第3号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
教育環境を整える		る生徒 70%以上 校内美化（掃除ゴミ拾い等）に努めていると答える生徒 80%以上	る生徒 <u>72.7%</u> 校内美化（掃除ゴミ拾い等）に努めていると答える生徒 <u>84.7%</u>		る環境の整備ができた。 ・年度当初に、清掃用具入れの清掃と点検補充を行ったため、例年より清掃しやすい環境を整えることができた。雑巾交換も学期ごとに行った。次年度以降も清掃用具の点検補充を徹底する。
	b 教育相談活動を充実する	悩みを相談できる人がいると答える生徒 85%以上 ICT等を用いた情報共有システムがある	悩みを相談できる人がいると答える生徒 <u>88.0%</u> ICT等を用いた情報共有システムがある	B	・Cラーニングによる健康観察の導入が、「悩みを相談できる人がいると答える生徒」の目標値である85%を超えたという成果につながった。次年度は入力率の向上を目指したい。
	c 広報を充実する	（本校の教育方針や教育活動を、配布物やホームページ等を通じて）わかりやすく伝わっていると答える保護者 80%以上 印刷物の配布前年比 2割減	（本校の教育方針や教育活動を、配布物やホームページ等を通じて）わかりやすく伝わっていると答える保護者 <u>80.6%</u> 印刷物の配布前年比 2割減	B	・校長ブログを楽しみにしている保護者もいるため、さらに充実したホームページにする。 ・GoogleアンケートやC-ラーニングを活用し、印刷物の配布を減らした。外部からの配布依頼について、可能な限りデータで受け取り、Web配信とした。
	d 業務改善を図り教職員の健康を保持する	ストレスチェック分析事業で総合健康リスクが100（全国平均）を下回る 年 100 時間以上の有給休暇の取得 学校運営協議会から提言をいただき 1 件以上の改善を行う	ストレスチェック分析事業で総合健康リスク <u>約10ポイント低い</u> 年 100 時間以上の有給休暇の取得 学校運営協議会から提言をいただき 1 件以上の改善を行う	A	・気温や日照、水質などの職場環境衛生は悪化しているが、ストレスに直結していない結果であった。年間労働時間の長い職員に学校医の面談を促すこと等を今後も継続したい。また、職務ができる限り平均化するような仕組み作りが大きな課題である。 ・生徒一人一人と、向き合っている先生が多いので、ストレスポイントが低くなっていると感じる。 ・有給休暇の取得は、平均すると一人当たり118時間（4～12月）であった。 ・学校運営協議会からいただいた提言をもとに探究学習について外部での発表をすることができた。